

難易度・平均点 受験のプロの 予測！



駿台予備学校 入試情報室長
城田 高士 さん

駿台予備学校の東大専門校舎・医学部専門校舎や現役生専門校舎などで、長年にわたり進路指導を担当。多くの受験生を第1志望の難関大学に送り出してきた。校舎責任者を経て現職。豊富な指導経験も踏まえた入試情報の発信を行っている。

新課程2年目となる2026年大学入学共通テスト(以下、共通テスト)。その難易度(平均点)や出題内容はどうなるのか？ 受験のプロである城田高士さんに2025年までの結果を踏まえ、2026年を予測していただいた。

共通テスト 新課程2年目(2026年)の 難易度(平均点)はどうなる？

新課程2年目は平均点が下がると言われるが本当か

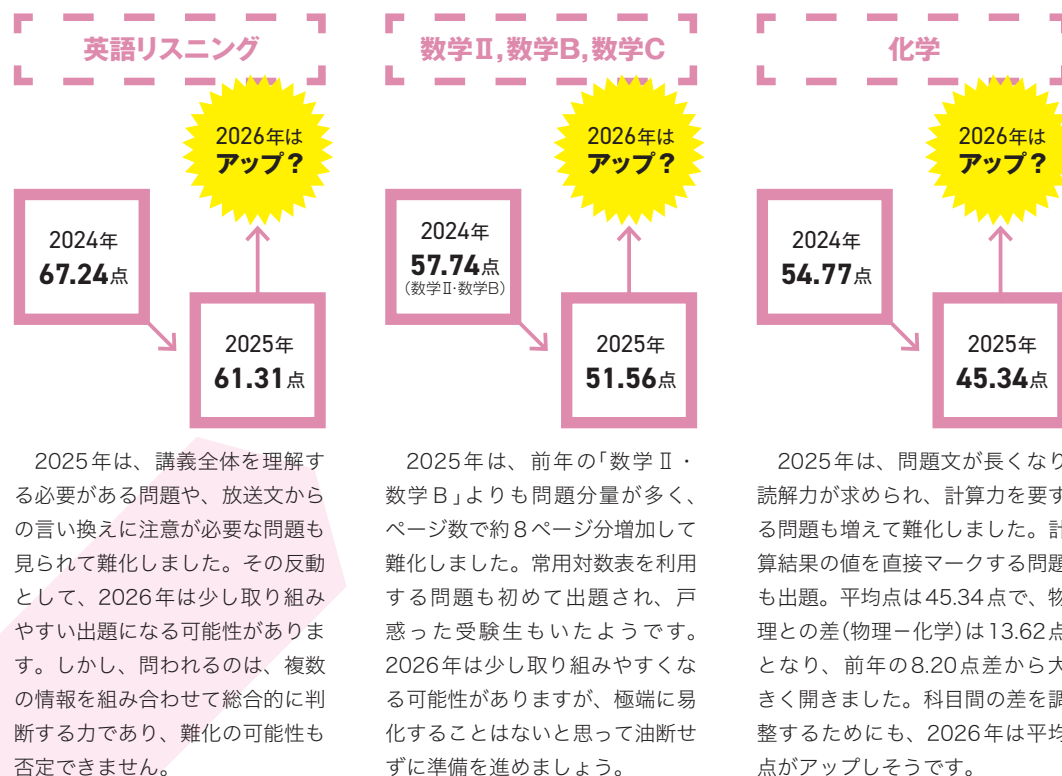
新課程初年度の2025年は、6教科1000点満点の総合平均点が文系620点(対前年：+24点)、理系633点(同：+12点)とアップしました。科目別に見ますと、国語(同：+10.17点)、英語リーディング(同：+6.15点)、「歴史総合、世界史探究」(同：+5.84点)、「公共、政治・経済」(同：+18.31点)などで平均点がアップしました。その反動から、2026年は平均点ダウンが予想されますが、特に国語は複数テキストや素材文の難化を想定して対策しておくといよいでしょう。

全体的には難化の予想！ 過去問演習の質を上げる

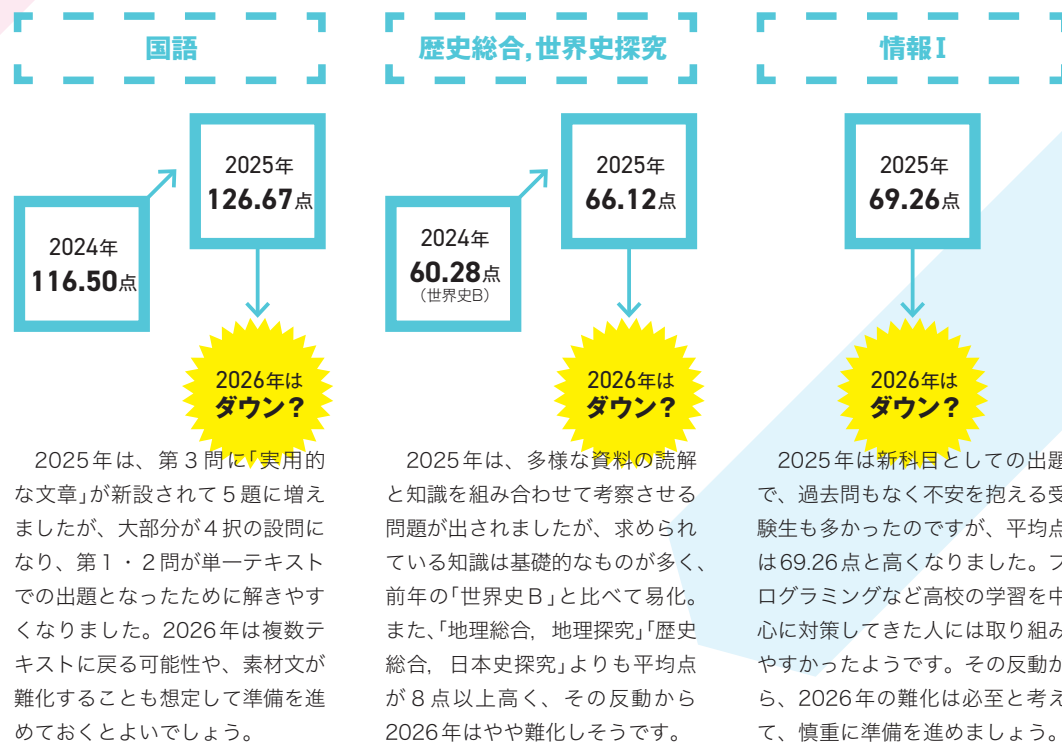
2025年の新科目「情報Ⅰ」の平均点は69.26点と高く、2026年の難化は必至でしょう。一方、2025年に平均点がダウンした「数学Ⅱ、数学B、数学C」(同：-6.18点)、化学(同：-9.43点)、英語リスニング(同：-5.93点)などは、その反動で2026年は平均点がアップしそうです。ただ、2026年は全体的に難化する前提で準備することは、学習上、プラスはあってもマイナスはありません。少し短い時間で過去問を解くなど、自分に厳しく対策を進めるといよいでしょう。

※本文中では、共通テスト・センター試験とも本試験について解説。各科目の平均点・平均得点率は大学入試センター発表のデータ。対前年のうち、「歴史総合、世界史探究」は「世界史B」、「公共、政治・経済」は「政治・経済」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」は「数学Ⅱ・数学B」との平均点差。6教科の総合平均点は駿台予備学校・ベネッセコーポレーション・河合塾の推定(地歴・公民は合わせて1教科)で、平均点差は前年の5教科900点満点の平均点を1000点満点に換算して算出。

平均点がアップしそうな科目



平均点がダウンしそうな科目



共通テスト 新課程 2 年目 (2026 年) の 出題内容は？

思考力・判断力・表現力を 問う問題が増える

共通テストの「問題作成方針」に明記されているように、思考力・判断力・表現力を問う出題傾向は強まると予想されます。どの教科・科目も長い問題文や会話文、複数資料、図表問題などを通して、こうした力が試されるでしょう。科目別では、英語リーディングは日常的な文章から説明文まで様々な題材が登場し、素材文の語数も増加しそうです。数学は「Ⅰ、A」「Ⅱ、B、C」とも、日常の事象を題材とした問題や対話文などの長文化により、情報処理能力が一段と重要になるでしょう。

「情報Ⅰ」は問題素材が 見慣れないものに!?

国語は、2025 年は第 3 問「実用的な文章」に複数テキストや言語活動の設問が集約され、逆に第 1 問「評論」・第 2 問「小説」は単一テキストの出題で解きやすくなりました。平均得点率は、第 1 問が 66.74 %、第 2 問が 73.47 %、第 3 問が 66.01 % と高めで、その反動から 2026 年は素材文や設問が難しくなりそうです。また、2025 年に平均点が高かった新科目「情報Ⅰ」は、2026 年の難化は必至で、問題の素材自体が見慣れないものになったり、設問が難しくなるでしょう。

共通テストの平均点が**高かった**場合・**低かった**場合の 自己採点結果のとらえ方

高
か
っ
た
場
合

難関大の志願者が高得点層に集中し、得点差が縮小。

2 次対策に一段と力を

難関国立大の志願者の共通テスト得点が高得点層に集中し、志願者間の得点差が小さくなります。難関大は 2 次 (個別) 試験の配点比率が大きく、2 次勝負と言われますが、平均点が高かった場合にはさらにその傾向が強まります。共通テストで目標得点を超えても気を緩めず、2 次試験対策に力を入れましょう。2025 年は平均点が上がっても安全志向が強くなりました。後悔しないためにも、第 1 志望校をあきらめないことが大切です。

低
か
っ
た
場
合

安全志向が働いて、中堅大は志願者増、難関大は志願者減。

後悔しない選択が重要

平均点が低かった場合には、第 1 志望校の出願をあきらめる受験生が増加します。難関大の競争は緩和し、その他の大学に志願者が集中してしまうことがあります。安全にと思って出願校を変更しても、変更先の大学が高倍率となって難化することもあり得ます。落ち着いて 2 次試験で挽回する可能性を検討し、納得のいく出願をすることが大切です。志望校を下げて合格したとしても、入学後に後悔するのでは意味がありません。

C O L U M N

前回の新課程 1 年目 → 2 年目はどうだった？

一部の科目で平均点が 大きく下がった

前回の課程変更は「ゆとり教育からの脱却」を掲げ、2 年かけて段階的に行われました。数学・理科が先行して 2015 年から、他の教科は 2016 年から新課程入試が行われました。2017 年の国語 (新課程 2 年目) は平均点が 22.43 点下がるなど、一部の科目では平均点が大きく変動。2 年目だからといって全教科が難化したわけではありませんが、2026 年は「難しくなるかもしれない」と思って慎重に準備をしておくのがよいでしょう。

5 教科の総合平均点は、 あまり変わらなかった

一部の科目で平均点の上下はあったものの、5 教科の総合平均点は大きくは変わりませんでした。しかし、注意が必要です。2007 年の前々回課程変更 2 年目入試や、センター試験から共通テストへ移行後 2 年目の 2022 年入試では、総合平均点が暴落したからです。2022 年の理系総合平均点 (900 点満点) は、前年の 572 点から 513 点と 59 点もダウン。試験当日の手ごたえが悪くても、落ち着いて最後まで解ききる心構えで臨んでください。

※総合平均点は駿台予備学校・ベネッセコーポレーションの推定。

● 前回の新課程 1 年目 → 2 年目 センター試験「主要科目」平均点変動

教科・科目		満点	2015 年	2016 年	2017 年	対前年
国語		200		129.39	106.96	−22.43
英語	筆記	200		112.43	123.73	+11.30
	リスニング	50		30.81	28.11	−2.70
数学	数学Ⅰ・数学 A	100	61.27	55.27		−6.00
	数学Ⅱ・数学 B	100	39.31	47.92		+8.61

赤太字は、前回の新課程 2 年目の平均点。

前回の新課程 2 年目は、国語が**大幅難化!**「数学Ⅰ・数学 A」が**難化**、英語筆記と「数学Ⅱ・数学 B」が**易化!**

あと 30 日の 共通テスト攻略ポイント!

ポイント 1

問題量が多い傾向は続き、試験時間との戦い!
過去問演習は、**解答時間を短く**設定して取り組む

ポイント 2

現行課程の過去問は 1 年分のみ。過去問だけでなく、**模試・問題集**も活用し、間違えた問題は必ず復習する!

ポイント 3

全科目の学力ピークを本番に合わせて調整!
伸びしろが大きいのは**苦手科目**! あきらめずに対策を